

思い出深い大学3年の夏

武田 秀人

1979年 岡山大学卒業

1977年（昭和52年）札幌（北海道大学体育館）で行われた第17回大会で岡山大学は男子団体が初優勝を飾り、個人戦でも私が優勝という喜ばしい結果となりましたが、この好成績の裏にはこれからお話しする出来事が大きく係わっておりました。

国公立大会の1週間前に大阪（近畿大学記念体育館）で開催された第47回全日本大学対抗卓球選手権（インカレ）で中国学連代表の岡山大学（4年生の黒川さん・山下さん、3年生鳩野君・私）は、関東学生1部リーグの中央大学と、同じ国公立の大阪大学との3チームによる予選リーグブロックに入りました。4単1複で3チーム中上位2チームが決勝トーナメントに進む形式で、初日は大阪大 vs 中央大、中央大 vs 岡山大の2試合が行われました。第10回の投稿で筑波大卒の井上さんが紹介した裏ソフトアンチラバーを駆使する赤路選手（当時4年生）と狩野選手（同2年生）の2枚カットマンを擁する大阪大は中央大の強豪選手を翻弄し、何と3-1で勝利したのです。その試合後、中央大と対戦した岡山大は結果的に敗れたものの、2-3という接戦で、翌日の大阪大との試合に3-1或いは3-2で勝つ事ができれば、勝率差で大阪大・岡山大が予選を勝ち上がり、中央大が予選敗退という前代未聞の出来事が起こる可能性が出てきたのです。初日を終えチームメンバーとの夕食時、翌日は大阪大に勝って、両国立大学が決勝トーナメントに進出し、中央大が予選落ちするという、大変な事態の当事者に我々が成る事を誰もが信じて疑わない雰囲気になっていたと記憶しています。ここに大きな落とし穴がありました。

翌日、大阪大との予選リーグ最終戦が始まりました。黒川さんと私はカット打ちには自信があったので、大阪大の2枚カットマンと直接対戦してもこちらに分があると思っていましたが、ダブルスで不覚を取ってしまったのが響き、1-3で負けてしまったのです。結果予選リーグ1位は大阪大、2位が中央大で岡山大は最下位に沈みました。決勝トーナメントに進出した大阪大は1回戦で日体大に3-1で勝利しベスト16に入り、次の大阪経済大との試合では2-3で惜敗しましたが、大阪大がインカレで旋風を巻き起こしたと当時大きく報じられました。

話が前後しますが、大阪大との団体戦に敗れた岡山大チームは失意のどん底に落ち、悔しくて打ちひしがれ、私自身はと言うと極めて情緒不安定な状態に陥り、当時主将という立場でありながら、翌週北海道で開催される全国国公立大会を棄権して、このまま岡山に帰るとか、まるで幼児が駄々をこねる様な言動をしていました。正直、この時誰も止めてくれなければ本当に私は北海道にも行かず、岡山に戻っていて、その後の私の卓球人生はきっと終わっていたと思います。その時、普段は大変厳しい黒川さんが私を叱る事無く、時間を掛け非常に優しく諭してくれた為、何とか気を取り直して、その晩、舞鶴発小樽行のフェリーに乗船することになりました。

舞鶴から小樽までは当時 25 時間以上掛かりました。この間、広い海原をゆっくり進む船上で、自分が如何にちっぽけで未熟であった事をあらためて悟り、自分自身を見つめ直す事が出来、北海道に着いてからも試合開始日まで数日あったので、チームメンバーと共に洞爺湖周辺を観光し北海道の自然の雄大さに触れ、心身共にリフレッシュできました。これが大きなゲームチェンジャーとなりました。

かくして始まった国公立大会男子団体戦では、岡山大は順調に決勝まで駒を進め、反対側ブロックの東京大 vs 筑波大の準決勝戦の行方を見ていました。当時筑波大は第 14 回大会から東京教育大時代を含め 3 連覇中で、今大会も 4 年生の湊・高島選手、3 年生の齋藤選手、さらに 2 年生の井上選手・1 年生の大橋選手といった盤石の布陣でした。そのような筑波大を相手に、庄司選手・田中選手率いる東京大チームは目を見張る戦いを演じ、3-1 で優勝候補本命の筑波大を下したのです。本当に鮮やかな勝利でした。

戦う相手は異なりますが、1 週間前のインカレと似たような状況になりました。東京大との決勝戦を前に岡山大チームメンバーはお互い言葉こそ交わしませんでした。このときっとメンバー一同、同じ轍は踏まない、相手はあの強豪筑波大に勝った東京大だ、向かっていく気持ち・チャレンジ精神で戦おう、という気持ちになり、正にチームが一つになれたのだと思います。団体戦トップで東京大田中選手と対戦した私は、田中選手の得意な放り上げサーブに苦しみながらも接戦で勝つことが出来ました。次の 2 番で出場した同級生の鳩野君は私の知る限り最高のパフォーマンスを演じ、相手の 2 番手選手に完勝し、これで勢いのついた 3 番の黒川さんとのダブルスでも東京大の庄司・田中組に対して押せ押せの展開で、何と 3-0 のストレートで東京大に勝利し、国公立男子団体戦で岡山大が初優勝を飾る事が出来ました。その後の個人戦でも私は団体戦で優勝できた勢いで、準決勝で筑波大の湊選手、決勝では同じく筑波大の齋藤選手に勝って優勝する事が出来たのです。

自慢話みたいになってしまいましたが、今から 45 年も前のこの出来事は今でも良く思い出します。あの時、本当に小樽行きのフェリーに乗って良かった、もし不貞腐れて岡山に帰っていたら今の私はきっと無かった、思い出深い大学 3 年の夏でした。

この 3 年半余り、コロナの影響や身内の不幸が続いた事などで全くラケットが握れておりませんが、東京大卒の田中さんや他の同年代の国公立大卓球 OB の方々がご活躍している姿を見習い、私も少しずつリハビリしながら今後も卓球のお付き合いさせて頂きたいと思っておりますので、その節は何卒宜しくお願い致します。